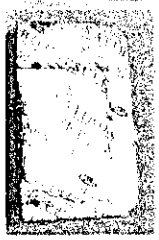
平成１６年　１月２２日

１月２０日、県中地方の医療機関より、個人で中国（上海）から輸入した無承認無許可医薬品を服用した男性（３５歳）が腹痛・嘔吐・下痢等の症状を呈し肝機能が著しく低下した旨連絡があり、１月２１日に検体を入手し検査したところ、本日、疑わしい物質が検出され、本件は下記製品による健康被害の疑いが出ましたのでお知らせします。
（当該成分については、現在精査中です。）
個人輸入を行う場合は、個人の責任で医薬品等の品質、有効性及び安全性の確認を行う必要がありますので、購入にあたっては、特に注意してください。

無承認無許可医薬品の個人輸入の危険性については、これまでも県民に対し普及啓発を図ってきたところですが、今後ともあらゆる機会を捉えて、普及啓発を図っていくこととしております。

なお、健康被害が疑われる場合には、速やかに医療機関で受診されますことをお勧めします。



○三便宝カプセル

濃い青色のカプセル剤。

シートの裏面に「三便宝こう（注１）養」、「SATIBO CAPSULE」と記載してある。

（注１）こう　号炎（にくづきに交）

もし、個人輸入した医薬品や食品を使用して体に不調を感じた場合は、すぐに使用を中止して医療機関を受診してください。

個人で輸入した医薬品等で健康被害が発生した場合は、自己責任であることを理解して使用してください。

なお、これらの製品に関する相談は、最寄りの保健福祉事務所に、現物を持参のうえ行ってください。

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻、号	ページ	出版年
Aimi, N. 他	New Oxindole Alkaloids and Iridoid from Carolina jasmine (Gelsemium sempervirens Ait. f.)	Chem. Pharm. Bull	51 (10)	1211-1214	2003
Aimi, N. 他	Structure Reinvestigtion of Gelse- moxonine, a Constituent of Gelse- mium elegans, Reveals a Novel, Azetidine-Containing Indole Alkaloid	Organic Letters	5 (12)	2075-78	2003

20031228 (2/2)

厚生労働科学研究費補助金

医薬品等医療技術リスク評価研究事業

専ら医薬品として使用される成分本質(原材料)の有効性および安全性等の評価に関する研究

平成15年度　総括・分担研究報告書

(H15-リスク-031　第2分冊)

主任研究者　海老塚豊

平成16年3月

「専ら医薬品」の有効性、安全性等の評価に関する調査結果

アオダモ～コケモモヨウ

分担研究者
国立医薬品食品衛生研究所
合田幸広

平成15年度 調査品目

アオダモ
アラビアチャノキ
アラビアモツヤク
アルニカ
アロエ
イチイ
イヌサフラン
イリス
イレイセン
インチンコウ
インドサルサ
インドジャボク
インドボダイジュ
インヨウカク
ウマノスズグサ属
ウヤク
ウワウルシ
ウンカロアポ
エイジツ
エニシダ
エンゴサク
エンジュ
オウカシ
オウカボ
オウギ
オウバク
オウゴン
オウヒ
オウレン
オシダ
オノニス
オモト
オンジ
カイソウ属
カイトウヒ
カガミグサ
カゴソウ
カシ
カシュウ
カスカラサグラダ
カッコウ
カッコン
カバ
カラバル豆
カロコン
カロライナジャスミン
カワラタケ
カンショウコウ
カントウカ
カンボウイ
キササゲ
キッピ
カンラン
キナ
キョウカツ
キョウニン
キンリュウカ
グアシャトンガ
クジン
クスノハガシワ
グラビオラ
グリフォニア・シンプリシフォリア
ケイガイ
ケシ
ケンゴシ
ゲンジン
ゲンチアナ
ゲンノショウコ
コウブシ
コウフン
コウボク
コウホン
コオウレン
ゴールデンシール
コケモモヨウ

評価基準

A:安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
B:国内外を含め医薬品としての使用実態があり、専ら医薬品と考えられる。
C:さらに調査を続ける必要がある。
D:現在のところ判断データがない。
E:医薬品としての使用実績が乏しく、含有成分等からも食薬区分の見直し対象となり得ると考えられる。

名称　アオダモ

他名等　トネリコ

部位等　樹皮（秦皮＜シンピ＞）

備考

学名（科名）①*Fraxinus lanuginosa* Koidz.②*Fraxinus japonica* Blume（Oleaceae）もくせい科　トネリコ属

基原植物和名等　アオダモ、コバノトネリコ、アオタゴ

医薬品として使用実態があるか　Yes

①下痢止め、解熱には樹皮 1 回分 3~6g に水 300ml を加え、半量に煎じて服用すると効果がある。また昔からアオダモは目の薬効が知られているが、結膜炎などには樹皮 5~15g に 400ml の水を加え、1/3 量に煎じて洗顔する。

②利尿、眼疾の治療に用いる。また、消炎性収斂薬、熱性下痢、解熱、洗眼、強壮薬として応用される。また、漢方処方白頭翁湯に用いる。下痢止め、解熱には樹皮 1 回分 3~6g に水 300ml を加え、半量に煎じて服用すると効果がある。また昔からアオダモは目の薬効が知られているが、結膜炎などには樹皮 5~15g に 400ml の水を加え、1/3 量に煎じて洗顔する。

毒性データ（LD50 等）①なし　②LD50 = 1620 mg/kg (i.v., rat), 5400 mg/kg (s.c., rat)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

クマリン配糖体のエスクリンが含まれる。収斂作用のあるタンニン、フラキシンを含む。

主要な生理活性

エスクリン、フラキシンには尿酸排泄機能亢進、利尿、カラゲニン浮腫抑制作用が知られている。エスクリンを加水分解してできるエスクレチンには毛細血管の透過性を抑制し、皮膚に対する保護効果がある。下痢止め、消炎、解熱、通風、洗顔に用いられる。

重要文献

（牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical Dictionary 2nd edition より）

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

評価：**B**

日本で民間薬として長く使われており、同属の *F. chinensis*（中国産）は中薬である。また、食経験は知られていない。以上のことから専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。

名称　アラビアチャノキ

他名等

部位等　葉

備考

学名（科名）　*Catha edulis* Forssk (Celastraceae) ニシキギ科

基原植物和名等　チャット（khat, エチオピア）、カート（イエメン）、アラビアティー

医薬品として使用実態があるか　No

カートはアラブ諸国やエジプトにおいて覚醒作用のある食物として使用されている。葉を噛むと疲れや眠気を軽減する。

毒性データ（LD50 等）　LD50 > 2 g/kg (p.o., mouse)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　Yes

含む場合その化合物は

cathine および cathinone

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか

Yes

その場合の対象化合物等

cathine および cathinone。cathinone はアンフェタミンと同様に交感神経末端からのカテコールアミンを遊離させて交感神経興奮作用を示す。

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

（Phytochemical Dictionary 2nd edition、Dictionary of Plant Toxins より）

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

評価：**A**

アンフェタミンと同様の覚醒作用を持つ cathinone が含まれている。

名称　アラビアモツヤク

他名等　ミルラノキ
部位等　全木
備考
学名（科名）　*Commiphora abyssinica* (Berg) Engl.　(Burceraceae)かんらん科　コンミホラ属
基原植物和名等　ミルラノキ

医薬品として使用実態があるか　Yes
モツヤクジュと同様に没薬の採取に用いる。没薬の効能は乳香に類似し、駆瘀血、抗炎症、止血の作用がある。没薬の水浸液は各種の皮膚真菌に対して抑制作用のあることが知られている。没薬は粘膜の収斂薬、口や咽頭の炎症に用いられる。
毒性データー（LD50 等）なし
アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　No
麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか　No

主要な二次代謝産物等
樹脂にα–, β–, γ–コミフォール酸、コミフォリン酸、α–, β–ヘラボミルロール酸、、α–, β–ヘラボミルロール、コミフェリンを含む。精油はクミンアルデヒド、オイゲノール、m-クレゾール、ピネン、ジベンテン、リモーネン、ケイヒアルデヒド、ヘラボレンなどを含む。
主要な生理活性
重要文献
（牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical Dictionary 2nd edition より）
その他注意すべき点
Botanical Safety Handbook 無記載

評価：**A**
ミルラに禁忌がある。ミルラの原植物は *Commiphora* sp.であり、本種も含まれると考えられるため、専ら医薬品としておくべきである。

名称　アルニカ

他名等

部位等　全草

備考

学名（科名）　*Arnica montana* L..　(Compositae)きく科　ウサギギク属

基原植物和名　アルニカ

医薬品として使用実態があるか　Yes　Com E に Arnica flower の記載あり。

アルニカの精油は局所刺激作用があり、全草のチンキ剤には消炎作用がみられる。フラボン系色素のアルニシンには血圧効果作用、神経に対して興奮作用がある。花は神経興奮、消炎薬として神経痛、挫傷などに、根は興奮、解毒薬として用いられる。

毒性データ（LD50 等）精油は LD50 = 31 mg/kg (i.p., mouse), 123 mg/kg (p.o., mouse)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか　No

主要な二次代謝産物等

花にフラボン系色素、苦味成分アルニシン、セスキテルペンラクトン（アルニコライドなど）、根にアルニシン、トリテルペノイド（ファラジオール、アルニジオール）、糖類、C12-13 の不飽和鎖状化合物、全草に精油

主要な生理活性

重要文献

（牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical Dictionary 2nd edition、Com E より）

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook

External use: Class 2d　（開いた傷口には使ってはならない。高感受性の患者が長期的に用いるとアレルギー性皮膚炎を起こす場合がある。）

Internal use: Class 2b　（米国ではアルコール飲料に香料として添加する場合のみ食品に用いることが認められている。カナダでは食品には使うことができない。）

評価：**A**

1)Com E に記載されており、また、ヨーロッパで長く医薬品としての使用実態がある。2) 浮腫を起こすなど、皮膚への副作用が強い。3)　アメリカ及びカナダで使用制限がある。

名称　アロエ

他名等　ケープアロエ、キュラソーアロエ
部位等　葉の液汁
備考　根・葉肉は「非医」、キダチアロエの葉は「非医」
学名（科名）　①*Aloe ferox* Mill.　②*Aloe barbadensis* Mill. = *Aloe vera* L.　(Liliaceae) ゆり科　アロエ属
基原植物和名等　ケープアロエ、キュラソーアロエ

医薬品として使用実態があるか　Yes　局方記載。USP 記載。Com E 記載。
①少量を苦味健胃剤とし、消化不良、慢性胃カタルに用いるほか、下剤として、常習便秘に有効である。ただし妊娠時、月経時、腹痛、疝痛、嘔吐、嘔気、その他虫垂炎の兆候のあるときは用いてはならない。民間薬として用いる場合は、日本で栽培されているキダチアロエ A. arborescens Mill.（木立蘆薈）が用いられる。緩下剤（中程度の強さの下剤）として用いる場合は、生の葉をすりおろしたものを 0.05g、峻下剤（少量で強い作用を起こす下剤）としては 0.1~0.5g をそれぞれ 1 回で服用する。
②便秘に対して下剤として用いる。アロインが腸内細菌により分解されて生じたアロエエモジンは瀉下作用を持つ。
毒性データ（LD50 等）①なし。②LD50 = 250 mg/kg (i.p., mouse)
同属植物
アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　No
麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか　No

主要な二次代謝産物等
アロエの主成分は結晶性苦味物質アロインおよびこれの分解生成物と考えられるアロエエモジンでその原料としては、*A. africana* Mill., *A. succotrina* Lam., *A. ferox* Mill., その他同属植物が利用される。
重要文献
（牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical Dictionary 2nd edition より）
その他注意すべき点
Botanical Safety Handbook
Class 2b, 2c, 2d（腸閉塞、原因不明の腹痛、虫垂炎、大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、痔、腎機能障害、月経時および 12 歳未満の小児には禁忌。8～10 日を超えて使用してはならない。標準的な用量は就寝時 50-300 mg）

評価：A
葉肉は食用であるが、葉の液汁は医薬品製造のために採取しているものであり、医薬品である。

名称　イチイ

他名等　アララギ
部位等　枝・心材・葉（一位葉<イチイヨウ>）
備考　果実は「非医」
学名（科名）　*Taxus cuspidata* Sieb. et Zuee.　(Taxaceae) いちい科　イチイ属
基原植物和名等　イチイ、アララギ、オンコ

医薬品として使用実態があるか　Yes
民間で利尿、通経および糖尿病に用い、果実は咳止めや下痢に用いる。利尿、通経には一位葉 1 日量 10~15g に水 400ml を加え、半量まで煎じて 3 回にわけて服用する。とりたての生葉でもよい。種子は心臓に毒性を示すタキシンを含み、連用すると中毒するので十分注意を要する。
毒性データ（LD50 等）タキソール：LD50 orally in the dog 9 mg/kg body-weight

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　Yes
含む場合その化合物は
Paclitaxel（タキソール）、タキシン、タクスシン、タキシニンA，H，K，L
麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか　No

主要な二次代謝産物等
スチアドピチシン（フラボノイド）
主要な生理活性
重要文献
（牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical Dictionary 2nd edition より）
その他注意すべき点
Botanical Safety Handbook 無記載

評価：**A**
Paclitaxel など、毒性の高い化合物が含まれているため。

名称　イヌサフラン

他名等
部位等　種子（コルヒクム子）
備考
学名（科名）　*Colchicum autumnale* L.　(Liliaceae) ゆり科　イヌサフラン属
基原植物和名等　イヌサフラン

医薬品として使用実態があるか　Yes
通風治療薬コルヒチンの製造原料である。
毒性データ（LD50 等）Highly toxic, with a lethal dose of 10 mg in humans.

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　Yes
含む場合その化合物は
コルヒチン、種子には 0.4-1.2%、鱗茎には 0.2-0.5%含まれる。
麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか　No

主要な二次代謝産物等
主要な生理活性
中枢性の知覚麻痺と末梢性血管麻痺の作用があり、通風による激痛を特異的に鎮める作用がある。
鎮痛薬として通風に用いる。
有効成分のコルヒチンは植物細胞の染色体を 2 倍にする作用があり、農業用や園芸用の品種改良に用いられる。
重要文献
（牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical Dictionary 2nd edition より）

その他注意すべき点
Botanical Safety Handbook 無記載

評価：**A**
毒性の高いコルヒチンが含有されるため。

名称　イリス

他名等

部位等　根茎（イリス根）

備考

学名（科名）　①*Iris florentina* L. or *Iris germanica* var. *florentina* (L.) Dykes,②　*Iris germanica* L.,③*Iris pallida* Lam.　(Iridaceae) あやめ科　アヤメ属

基原植物和名等　①ニオイアヤメ、シロバナイリス、②ムラサキイリス、③シボリイリス

医薬品として使用実態があるか　Yes

薬理効果に関しての詳細は不明だが、根茎を健胃、利尿、去痰薬として用いるほか、粉末を散布薬、歯磨き粉、洗粉などの香料、精油を香料原料として用いる。

毒性データ（LD50 等）①②　LD50 = 500 mg/kg (i.p., rat)　③なし

同属植物　北米の湿地に生える *I. versdcolor* L., *I. caroliniana* S. Wats. などの根茎は、ブルーフラッグと称し、西洋民間で消炎、利尿薬として用いるといわれる。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか　No

主要な二次代謝産物等

根茎に精油のイロン、オイゲノール、メチルオイゲノールのほか、でん粉、脂肪油などを含む。また、根茎には iriflorental、iripallidal などの iridal 類が含まれる。

主要な生理活性

iridal 類には細胞毒性、抗カビ活性、魚類毒性が知られている。LD50 などの毒性データはない。

重要文献

（牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical Dictionary 2nd edition より）

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook

Class 1（新鮮な根は粘膜に炎症を起こす場合がある）

評価：**B**

医薬品としての使用実態があり、また、食経験は知られていないため、専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。

名称　イレイセン（1）

他名等　シナボタンヅル
薬用部位等　根・根茎（威霊仙<イレイセン>）
備考　葉は「非医」
学名（科名）　*Clematis chinensis* Osbeck　(Ranunculaceae) きんぽうげ科　センニンソウ属
基原植物和名等　シナボタンヅル、サキシマボタンヅル

医薬品として使用実態があるか　Yes
威霊仙の水浸剤は皮膚真菌、黄色ブドウ球菌、赤痢桿菌に対して抑制効果があり、これはアネモニンによると考えられる。浸剤はマウスに対して顕著な血糖量降下作用が認められ、マウスに対して腹腔注射により鎮痛効果が認められた。威霊仙は即効性鎮痛薬として、神経痛、リウマチ、腰痛などのほか言語障害など器官麻痺による疾患、黄疸、浮腫などに用いられる。
威霊仙 1 日量 6-10g を煎じて服用する。
毒性データ（LD50 等）anemonin: LD50 i.p. in mice: 150 mg/kg
アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　Yes
含む場合その化合物は
アネモニン、プロトアネモニン、アネモノール
麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか　No

主要な二次代謝産物等
根にオレアノール酸、糖類、有機核酸などを含む。
主要な生理活性
重要文献
R. Brodersen, Akjaer, *Acta Pharmacol.*, **2**, 109 (1946).
（牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical Dictionary 2nd edition より）

その他注意すべき点
Botanical Safety Handbook
Class 1（樹液にはプロトアネモニンが含まれるとの報告あり。このものは皮膚と粘膜に炎症を起こす。炎症を起こす物質のほとんどは乾燥により失われる。）

名称　イレイセン（2）

他名等

部位等　根・根茎（威霊仙<イレイセン>）

備考　葉は「非医」。本植物を基原とする威霊仙は主として中国の東北地区、華北、山東などに出回っている。

学名（科名）　*Clematis hexapetala* Pall.　(Ranunculaceae) きんぽうげ科　センニンソウ属

基原植物和名等　イトクサボタン（サンリョウ）

医薬品として使用実態があるか　Yes

浸剤は麻酔したイヌの血圧を下げ、潜在はマウスの摘出腸管を興奮させる。プロトアネモニンには比較的強い抗菌作用がみられる。痛風、腰膝冷痛、脚気、マラリア、破傷風、扁桃炎、胃痛、歯痛などに用いられる。

腰膝冷痛には、本品 150g を細かくついてふるいにかけ、毎食前３ g を温酒で調えて服用する。脚気には、粉末を１回 6g、酒で服用する。

毒性データ（LD50 等）　なし。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　Yes

含む場合その化合物は

プロトアネモニン、アネモニン

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか　No

主要な二次代謝産物等

葉はクマリン類、ケンフェノールなどのフラボノイド類およびアルカロイド、精油、樹脂、根にプロトアネモニン、アネモニンのほかサポニン、アルカロイドなどを含む。

主要な生理活性

重要文献

（牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical Dictionary 2nd edition より）

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook には *C. hexapetala* は記載なし。

名称　イレイセン（3）

他名等

部位等　根・根茎（威霊仙<イレイセン>）

備考　葉は「非医」。威霊仙の基原植物は主としてセンニンソウ属のものであるが、他にゆり科のサルトリイバラ属、せんりょう科のセンリョウ属、きく科のモミジハグマ属などのものも使用されている。

学名（科名）　*Clematis manshurica* Rupr.　(Ranunculaceae) きんぽうげ科　センニンソウ属

基原植物和名等　タチセンニンソウ（コウライセンニンソウ）

医薬品として使用実態があるか　Yes

威霊仙の水浸剤は皮膚真菌に対して抑制作用があり、煎剤は黄色ブドウ球菌、赤痢桿菌に対して抑制効果が認められる。また煎剤はマウスの摘出腸管に対し、顕著な興奮作用がみられ、麻酔イヌに対して血圧降下作用、腎臓血管の収縮作用が認められる。その他、威霊仙の製剤はマウス、ラット、モルモットなどに対して顕著な抗利尿作用が認められた。威霊仙は鎮痛薬として神経痛、筋肉痛、通風、リウマチ、腰痛などに用いられる。

鎮痛に、威霊仙 1 日量 4~9g を煎じて服用する。

毒性データ（LD50 等）なし。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか　No

主要な二次代謝産物等

根にトリテルペノイド系サポニンのクレマトサイド A, A', B, C, そのサポゲニンのイレイセニンのほか、ヘデラゲニン、オレアノール酸などを含む。

主要な生理活性

重要文献

（牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical Dictionary 2nd edition より）

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook には *C. manshurica* は記載なし。

評価：A

基原植物 3 種のうち *C. chinensis* と *C. hexapetala* にアネモニンの含有が確認されており、また、*C. dioscoreifolia*、*C. recta*、*C. hirstissima* などにもアネモニンの含有が知られている。近縁種である *C. manshurica* にも含有されていると考えられるため。

名称　インチンコウ

他名等

部位等　花穂・帯花全草（茵蔯蒿<インチンコウ>）

備考

学名（科名）　*Artemisia capillaris* Thunb.　(Compositae) きく科　ヨモギ属

基原植物和名等　カワラヨモギ（ネズミヨモギ、カトリグサ）

医薬品として使用実態があるか　Yes　局方収載

スコパロンは利胆作用があり、精油成分には抗カビおよび駆虫作用のほか、利胆作用がある。単味では肝炎、黄疸、じんま疹、むみなどに用いられ、漢方では消炎性利尿、利疸薬として各種処方に配合される。

黄疸などには単味で一日量 10~20g に 400ml の水を加え、半量になるまで煎じ詰め、3 回に分けて服用する。またじんま疹、むくみなどに同量を 1000ml の水で煎じて服用する用法もある。

毒性データー（LD50 等）なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか　No

主要な二次代謝産物等

全草に精油として□-ピネン、カピレン、ノルカピレン、カピロン、カピラリン、カピリンのほか、キャピラリシン、キャピラルテミシン A, B, スコパロン（エスクチレン-6,7-ジメチルエーテル）、ゲンクワニン、ラムノシトリン、シルシリネオール、シルシマリチン、苦味質、果実にスコパロンなどが含まれる。

主要な生理活性

重要文献

（牧野和漢薬草大図鑑、日本薬草全書、Phytochemical Dictionary 2nd edition より）

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook

Class 2b（吐き気、腹部膨張、めまいを起こす場合がある。肝炎に対して *A. capillaris* とナツメ *Zizyphus jujuba* を処方された女性 2 人が Adams-Stokes 症候群（脳血流減少によって起こるめまいや失神）を発症した例がある。）

評価：**B**

局方に収載されており、使用実態があり、食経験は知られていないため、専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。

名称　インドサルサ

他名等　Indian sarsaparilla, hemidesmus
部位等　根
備考
学名（科名）*Hemidesmus indicus* (Asclepiadaceae)
其原植物和名等

医薬品として使用実態があるか　No
毒性データ（**LD50** 等）なし
アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　不明
麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか

主要な二次代謝産物等
2-OH, 4-MeO benzaldehyde (91% of volatiles at steam distn. 2-OH, 4-MeO benzoic acid
coumarino-lignoids (Indian J. of Chemistry, 31B(6), 342-5 (1992)
主要な生理活性
adjuvant effect and antiserum action potentiation (Toxicon, 36 1423 (1998).
重要文献

その他注意すべき点
データ不足だが、ネットでみると浴用剤、外用クリーム等に配合されているようである。また、食経験も報告されていない。
Smilax ornate　（サルサ根）は　皮膚病、梅毒、リウマチに利用される。
Botanical Safety Handbook class 4 (insufficient data)

評価 **D**
データ不足だが、浴用剤、外用クリーム等に配合されているようである。また、食経験も報告されておらず、積極的に食品と判断する材料もない。

名称　インドジャボク属

他名等 インドジャボク・ラウオルフィア
部位等　根・根茎
備考
学名（科名）　*Rauwolfia*　Apocynaceae（キョウチクトウ科）
R. serpenetina, R. heterophylla, R. vomitoria, R. caffra, R. obscura, R. semperflorens, R. natalensis
其原植物和名等　インドジャボク（R.auwolfia serpentina)

医薬品として使用実態があるか　Yes　Com E
毒性データ（**LD50** 等）
R. serpentina LD50 i.v.1150mg/kg　他

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　Yes
含む場合その化合物は
reserpine　（局方）, rescinnamine, deserpidine, ajamaline (局方)、他多数
rauwolfia alkaloids oral mouse LD50 690 mg/kg, subcutaneous mouse LD50 147 mg/kg
a mixture of alkaloids form r. serpentina oral, rat , LD50 183 mg/kg i.p. LD50 100 mg/kg
麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか
No

主要な二次代謝産物等
同属の植物はreserpine を含む
主要な生理活性
血圧降下、不整脈治療
重要文献

その他注意すべき点
Botanical Safety Handbook　無記載

評価 **A**
レセルピン等毒性の高いアルカロイドを含む（アルカロイド混合物で経口ラット LD50=183mg/kg: 劇薬。

名称　インドボダイジュ

他名等

部位等　樹皮

備考

学名（科名）*Ficus religiosa* Morr vor thumbergianum Nakai　（クワ科）

其原植物和名等

医薬品として使用実態があるか　No

毒性データ（**LD50** 等）LD50　i.p. mouse >500mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

bergapten (LD50　8g/kg) and bergaptol (antimicrobial acitivity)

タンニン類

主要な生理活性

果実は緩下作用、樹皮：民間薬として外用剤（煎汁を疥癬に用いる）、皮なめし、染料

重要文献

Constituents of F. religiosa and f. infectoria and their biological activity　(J. Indian Chemical society, 73(11) 631 (1996).

その他注意すべき点

ボダイジュは、シナノキ科シナノキ

Botanical Safety Handbook：無記載

評価:E

LD50　i.p. mouse >500mg/kg で二次代謝物の安全性も問題なさそうであるが、民間薬として外用剤として用いられたり、皮なめしや染料として使用されるなど、積極的に食品と判断する材料もない。